

Surprising
Ceramics.

日本ガイシ
NGK

いいミライを、つづろう。

セラミックスでミライの課題に応える日本ガイシ。
SF作家たちがつづる世界を、おどろきのセラミック技術で読み解けば、
なんだかありそうなミライが見えてくるかもしれません。

春、マザーレイクで

作・櫻木みわ
画・YOUCHAN

（あらすじ）

湖と友だちのモモが暮らしている島では、湖岸には風力発電の風車が、山の斜面には太陽光パネルが設置され、循環型の持続可能な生活が成り立っている。朝もモモも安全で快適な島の暮らしに不満はないが、島の外のことを教えてくれない先生に対して物足りなさも感じていた。独自に勉強をした二人は、外の世界は大きな（厄災）によって住める状況ではないことを知り、絶望する。しかし、この島と同じように厄災を生きて延びた人々が何処かにいるはずだという希望を持つ。



もしもカーボンゼロが当たり前前の暮らしを実現できるなら？

いまマザーレイクの湖面を行きかうのは、島に五そうある自動運転のAI漁船だ。AI漁船は高性能のGPSと魚群探知機を搭載し、太陽光で推進する。毎朝はやくに漁に行き、決まった分だけの漁をして、水質調査のための湖水を採取して帰って来る。朝の九時に、水処理センターのひとがその水を回収していく。

ぼくも船に乗ってみたい。水しぶきを立てながら湖面をすすみ、**居住棟がひしめくぼくらの島**を遠くからながめたり、みずうみのずっと端の端まで行って、島からはみえないほうの対岸をみに行ったりしてみたい。ぼくは漁船をみるのが好きだけど、船をみながら考えるのはいつもそのこと……。

日本SF作家クラブ編『2084年のSF』（早川書房）収録

小説設定確認：日本SF作家クラブ

©2022 Miwa Sakuraki ©YOUCHAN



©NGK-kero/dwarf

INCHEM TOKYO 2023

9.20 WED → 9.22 FRI

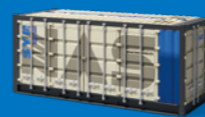
会場：東京ビッグサイト



ミライをつくるセラミックス その2

ハニカム構造のセラミックス

循環型社会を実現した未来の世界では、あらゆる領域でCO₂の発生を抑制した暮らしが当たり前になるはず。「ハニカム構造のセラミックス」はDAC(Direct Air Capture)によって空気中のCO₂を吸着し分離することが可能。回収したCO₂を貯留したり燃料などへ再利用できれば、カーボンゼロな未来も遠くないかも！



ミライをつくるセラミックス その1

電力貯蔵用NAS®電池

湖に浮かぶ島という環境で、再生可能エネルギーだけで持続可能な生活を送るには、エネルギーの安定供給に役立つ蓄電池が欠かせないはず。「NAS電池」は世界で初めて実用化された、再エネの安定化に役立つ大容量蓄電システム。この蓄電池が普及すれば、自然エネルギーだけで地球上の電力を賄える未来も夢じゃない！